

# 熊本県立天草高等学校 平成27年度学校評価表

<b>1 学校教育目標</b>
「平成27年度県立学校における教育指導の重点」及び「平成27年度人権教育取組の方向」を基盤に据え、本校の教育スローガン「求学志成」及び、三綱領「正大・剛健・寛厚」のもと、個性豊かな人材の育成と規律ある活気溢れる学校づくりを目指し、次の4項目を目標とする。

<b>2 本年度の重点目標</b>
(1) 自主的精神を高め、自らを律する態度を養い、一人一人の進路目標達成に応じた学力向上を図るとともに、生徒自ら問題を解決する力の育成に努める。 (2) 基本的生活習慣の確立と安全教育の徹底を図り、豊かな人間性の育成に努める。 (3) 心身の健康、体力の向上を図るとともに、創造性や感性を育む体験活動の推進に努める。 (4) 地域の拠点校として、地域に開かれた学校づくりに努め、地域、保護者、生徒の信頼と期待に応える教育活動を進める。

<b>3 自己評価総括表</b>						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学 校 経 営	開かれた学校づくり	公開授業の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「教育の日」及び土曜日を活用して保護者や地域の方々に、授業や発表会などを積極的に公開する。</li> <li>・近隣の小・中・高校にも案内し連携を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教務部が立案し、年間2回以上の公開授業等を実施する。</li> <li>・教務部が立案し、体験入学を実施する。</li> </ul>	A	<p>【○】公開授業は、6月と11月に各2週間ずつ実施することができた。本年度は保護者に加え近隣の学習塾からの参観もあり、本校の教育活動を見ていただく良い機会となった。また、職員同士の見学も増え、自身の授業改善に繋げることができた。</p> <p>【○】体験入学は、7月28日(火)に実施し、中学生345名、引率職員14名、保護者114名の参加があった。保護者の参加者数が昨年度より70名ほど増え、本校への関心の高さを感じることができた。</p>
		広報活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校HPの更新・充実を図る。</li> <li>・生徒の活動の様子を、学区内中学生や地域の方々に積極的に情報発信する。</li> <li>・中学校を訪問して学校紹介を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報図書部が立案し、学校HPの更新頻度を高める。</li> <li>・情報図書部が立案し、学校新聞「潮風」を月1回発行し、中学校等へ配付する。</li> <li>・情報図書部が中心となり、学校紹介DVDを作成し、広報に用いる。</li> <li>・アンケートを実施し、広報活動に反映させる</li> </ul>		<p>【○】昨年度より新しいHPシステム(CMS)を導入し、更新頻度を上げることが出来た。今後は、全職員に使い方を周知することで、職員が記事を提供し情報図書部が審査掲載する体制を整え、更に更新ペースを上げていきたい。</p> <p>【○】学校広報誌「潮風」は予定どおり発行できた。</p> <p>【○】学校紹介パンフレットは見栄えが良く、各所で好評であった。</p> <p>【○】主幹教諭が主導して新聞やテレビへの投込みを増やすことで、天高がマスコミに取り上げられる機会が増えた。(2学期以降18回投げ込み、延べ16社から取材を受けた。主に天草CATV, 熊日, NHK, KAB)</p>
	学校評議員会の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間2回学校評議員会を開催する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・副校長が立案し、学期に1回実施する。</li> <li>・地域の方々に本校の教育活動を紹介し、有意義な意見交換が出来る環境を整える。</li> </ul>	<p>【○】学校評議員会は、9月3日と2月15日に実施することができた。いじめに対する対応やインターネットに関する本校のルールづくり、特別支援を必要とする生徒への継続的な指導のあり方、大学入試制度改革に伴う本校の取組等について提言をいただき、情報交換することができた。</p>		
	育友会との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・育友会総会や学年別保護者懇談会の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総務部及び各学年が立案し学校全体で取り組む。</li> <li>・メール配信サービス加入率を向上させ、積極的に学校行事への参加を促す。</li> </ul>	<p>【○】育友会総会を始めとする学校行事、各学年の進路講演会等、育友会と連携を図り積極的活動ができた。広報誌「育鵬」の増刊号が好評であった。</p> <p>【△】生徒数が減少し今後地区活動への配慮が必要。</p> <p>【○】情報図書部との協力により、メール配信サービス登録が751名(前年+314名)と増加し、各行事連絡で効果を高めた。</p>		
	安全管理の取組	不祥事防止	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月実施する職員研修に参加する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不祥事ゼロ委員会が中心となり職員研修を実施する。</li> <li>・ロッカー及び机の引き出しの施錠を行う。</li> <li>・文書セキュアを活用し、情報の管理を徹底する。</li> <li>・毎月、全職員でセルフチェックを行う。</li> </ul>	C	<p>【○】年間8回、不祥事ゼロ委員会を中心に職員研修を実施した。啓発プリントで情報を共有することで一人一人の当事者意識を高めることができた。</p> <p>【○】年間を通して職員の情報セキュリティに対する意識改革に取り組むことができた。</p> <p>【×】私用USBの持ち込み禁止や、ロッカー施錠等、情報管理に関してはほとんどの職員が意識を高めつつあるが、執務室の机上周辺の整理整頓には、なお努力を要する。</p> <p>【対策】職員室の物品整理に取り組み始めた。来年度以降は職員の机上・ロッカー整理に繋げたい。</p> <p>【○】毎月、各自がセルフチェックや勤務時間調査等で自分の行動や意識を振り返り、自己管理に繋がられた。</p> <p>【×】職員の長時間勤務が課題である。</p>

					【対策】職員個別の業務内容毎の超過時間実態を月ごとに調査し分析している。抜本的対策を検討したい。
	教育環境の整備	学習環境の拡充	・生徒の自主的な学習環境を整備する。	・3学年部が企画し、土日祝日に学校を開放する。	B 【○】年間を通して計画通りに実施することができた。自学できる意識や力を付けることが目的である。学年毎に自学習習慣を付けるための学習合宿や、他校との合同学習合宿等にも積極的に取り組み、競争刺激に乏しいという地域の弱点を克服する手立てを積み上げている。
学 力 向 上	学力の充実	家庭学習習慣の確立	・予習の徹底と天高チャレンジ1500min(1週間の学習時間)の家庭学習を促させる。	・年間3回の自宅学習調査を行い、学年毎に対策を講じる。 ・保護者に結果を知らせる。	【△】6月と10月の2回実施し、集計・分析した。1500分を達成した生徒は、次のとおりだった。 ・H27.6 148名 → H27.10 168名(+20名) ・H26.6 61名 → H26.10 168名(+107名) 【○】学年と協力して、生徒に対しては各担任や学年集会等で、保護者に対しては学年通信等を通じて結果を知らせることができた。
		3年間を見通した指導計画	・授業担当者会を実施し、計画的な学習を進める。 ・生徒の実態を把握して計画の改善を随時行う。	・年度当初に授業担当者会を学年ごとに実施し、進捗状況の確認と意見交換を行う。 ・学期末に教科書の進捗状況を調査する。 ・学期ごとの考査・模試、各種調査、授業評価に基づいて検討する。	B 【○】4月に複数回実施し、個々の生徒の特性について、学年毎の共通理解を図ることができた。 【○】雛鷲プランの完成年度であり、3年間を通じた生徒の教育の成果を果らせることができた。 【△】各教科内では教科書の進捗状況の確認ができていたが、全教科を取り纏めることができなかった。 【対策】取り纏めに努めたい。 【○】定期考査の結果を受けて補習を計画・実施したり、1、2学期末に実施した授業改善アンケートの結果を受けて教科会で検討・分析することができた。
		習熟度別学習の実施	・国数英それぞれ学習到達度に応じた学習を行う。	・学期ごとに到達度を確認しクラス替えを行う。	【○】習熟度別にクラスを展開している教科では、定期考査や模擬試験等の結果を受けて、効果的にクラス替えを実施し、学力の底上げができた。
	教員の指導力の向上	学習指導法等の工夫・改善	・教科で年間2回以上の研究授業を行う。 ・教材研究の質の向上を図る。 ・作問力の向上を図る。 ・分析力の向上を図る。	・各教科で短期・中期・長期的なテーマを掲げ授業に臨む。 ・教科内・教科間を超えて、切磋琢磨しながら授業力の向上を図る。 ・授業に入る前の検討会を実施する。 ・生徒には、具体的にどう努力すべきかを明確に提示する。 ・定期的に教科会で問題検討する。 ・熊大・九大・+1(東大)の問題を4月第2週までに解答する。 ・定期考査問題の教科内での検討会を意欲的に行う。 ・現状を多角的かつ的確に把握し、適切な対応を行う。	B 【○】公開授業期間は活発に他教科・他学年の授業を見学でき、授業改善に繋げることができた。 【△】期間以外では見学者は少数である。また研究授業が年間2回以上実施できていない教科があった。 【対策】年間を通して授業を公開し、授業技術の向上に努める雰囲気醸成する。 【○】教科会等を利用して、授業担当者同士で教科書の内容をどのように指導していくのか単元毎に検討会を行い、共通理解を図ることができた。 【○】定期考査や模擬試験の結果を受けて、教科面談を実施し、生徒一人ひとりに対して具体的に理解度や学び直し箇所を提示することができた。今後は、提示した内容をどのくらい達成できたか確認していく必要がある。 【△】教務の考査実施調査で、問題検討会を実施する日時も調査しているが、超難関大学の問題検討を行う先生は、まだ一部の先生に限られている。 【対策】来年2学期の実力考査作問に繋げるためにも全員が解答するように呼び掛けていきたい。またすべての先生が解答できるようスケジュールを調べ、先生方による模範解答集を作成する等検討したい。 【○】定期考査の問題検討においては、各自が作成した考査問題を持ち寄り、過去に同範囲から作成した時の結果等を踏まえて、出題の狙い等意欲的に検討会を実施できた。
キャリア教育・進路指導	3か年の一貫した指導のもとでの進路目標の達成	第一志望現役合格の達成	・3年次の希望進路100%達成を目指す。 ・難関大学合格10人以上を含め、現役による国公立大学合格80人以上を目指す。 ・1・2年生、国・数・英で7・11月模試の偏差値50以上、1月偏差値52を目指す。 ・3年生の全科目において毎回の模試で偏差値50以上の度数が前年度を上回ることを目指す。	・3年生では進路検討会を4回以上行い、担任が生徒にアドバイスを行う。 ・模試分析会を年間4回以上行う。 ・確認考査・単元テストなどの小テストを行う。 ・3年生総体総文後、数学の基礎講座及び英語の教科面談を行う。 ・9・11月のマーク模試において定点観測を行う。 ・小論文対策の早期化と継続を図る。また、天高100冊の選定を行う。 ・推薦・A0入試対策として、専門分野の強化を図る。	B 【○】進路検討会は、合計5回の実施であり、目標を達成した。今後は内容の充実の検討を進めている。 【△】模試分析会については、3年生は進路検討会で代行した。2年生は、冬期休業に急遽実施した。来年度は、行事予定に組み込んでおく必要がある。 【○】数学・英語とも、習熟度や分野別の特別講義を実施し、学力の定着や向上に努力した。教科面談については、生徒に担当者から呼びかけてもらうようお願いしている段階である。 【△】ベネッセと河合模試について、平均偏差値や度数分布の資料を作成し、分析した。生徒の成績が速やかに向上する取り組みまでが、完全にできていないことが今後の課題である。 【○】推薦・A0入試対策は、2年次の天草起業塾に多くの生徒を参加させるなど、大学の公開講座にも参加するように促している。 【△】小論文対策については、後手に回っている。個別試験で必要になる生徒も多く、要検討である。た

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・センター試験の得点が全科目全国平均点以上を目指す。</li> </ul>		<p>だ、小論文ガイダンスからテーマ毎の小論文講座への流れを作り始めることができた。今後充実させていきたい。</p> <p>【○】4月に立てた計画に従って、おおむね順調に進んできた。生徒の将来のことを考えさせるために、キャリア教育を前面に打ち出して今後も進めていく。</p> <p>【○】講演会や学年の進路講演会の講師陣や内容についても十分満足いくものであった。さらに、色々な分野での講演会を準備し、自己目標の実現に向けて、考える種をまき、成長を促す手立てを考えてゆく。</p>	
	総合的な学習の時間の活用		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の進路についての意識を高めさせる。</li> <li>・知の注入とともに自分の考えを表現させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年間の計画に基づき、面談等で生徒の状況を確認しながら実施する。</li> <li>・討論会や調査内容の発表等の場を設ける。</li> <li>・インターンシップおよびキャリア教育を推進する。</li> </ul>		
	多様化する生徒の個々の進路目標への対応	進路意識の高揚・啓発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年、年間20回程度の進路情報を提供する。</li> <li>・各学年の進路講演会、大学出張講義、予備校や大学によるガイダンス、職業別講演会を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路の手引き「求学志成」と「進路ニュース」を作成し活用する。</li> <li>・学年ごとに、時期・段階と生徒のニーズにあった内容で講演会を実施する。</li> <li>・受験形態を熟知し、生徒の個性にあった進学指導を実践する。</li> </ul>	B	<p>【○】進路の手引き「求学志成」の作成については、目標のものできた。今後はこの冊子の活用法を各学年で考える必要がある。「進路ニュース」については、適直適切な内容で作成し発行できた。</p> <p>【△】学年通信を活用した保護者への情報発信は概ねできた。回数が少ない学年もあり、保護者への情報提供について工夫するところが反省点である。</p> <p>【○】講演会や学年の進路講演会の講師陣や内容についても十分満足いくものであった。同窓会とも連携して、卒業生の中から人材バンクを作成したい。</p> <p>【△】受験形態は年々複雑となり、全体の把握は厳しい。その都度、チェック機能を十分に働かせる必要がある。</p> <p>【対策】職員研鑽に加え、生徒・保護者向けの学習会を年間計画に織り込み、計画的に実施する。</p>
		進路希望に応じた個人指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任による個人面談を実施する。</li> <li>・教師が教科指導力を高いレベルで養い、如何なる大学進学に対しても積極的指導を実践する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学期に2回以上は、担任が個人面談を行う。</li> <li>・進路指導部が大学や入試などの情報を提供する。</li> </ul>		<p>【△】回数等の目標値は概ね達成できているが、面談内容の評価については、確定できない。</p> <p>【対策】生徒のやる気を引き出す声かけや教科・進路指導が重要である。日頃から、教師側がいかにかアンテナを高くして、いかに情報を入手するか心構えと自覚のレベルが、即ち「指導力」である。</p> <p>【△】進路指導部からの情報提供はまだ不十分である。</p> <p>【対策】学年や担任目録での情報提供を工夫する。また、今後は、学び直しが必要な生徒たちへの体系的な支援を構築していく。</p>
生徒指導	自律心の育成	生徒会活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月生徒朝会を実施する。</li> <li>・年間3回以上委員会を開催する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒に運営させる。</li> <li>・職員が指導助言にあたる。</li> </ul>		<p>【○】生徒会を中心に、年間を通して挨拶運動や生徒朝礼に取り組むことができた。挨拶運動は、生徒会執行部だけでなく、部活動生徒にも広がった。</p> <p>【○】生徒一斉委員会を毎月実施し、活動を活発化することができた。</p>
		部活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加入率90%以上を目指す。</li> <li>・集中力を高め技能を向上させ上位入賞を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員で加入を推奨し、勉強との両立を図るための指導を行う。</li> <li>・短時間で高い効果を生む練習の工夫を行う。</li> </ul>	B	<p>【○】部活動には90%を越える生徒が参加し、日頃の学校生活を活性化する等良い影響を与えている。</p> <p>【○】体育系部活動では、体育科と連携し、部活動リーダー研修会を夏季休業中に実施し、効果的な練習の工夫を促すことができた。</p>
		ボランティア精神の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア活動参加率60%以上を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部のボランティアと連携し、生徒集会等で積極的に参加を促す。</li> </ul>		<p>【△】ボランティア活動については、上級生になるにつれて参加が多くなってきている。</p> <p>【対策】年間計画を作成し生徒が計画的に参加できるようにしたい。また、部活動による奉仕活動等を定期的に入れていきたい。</p>
		基本的な生活習慣の確立	交通モラルとマナーの向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間5回以上の登下校指導を行い、交通違反0を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査前の指導は全職員で行う。校外指導も行う。</li> </ul>	B
		規範意識の高揚	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間5回以上の服装検査・再検査を行い、服装違反をなくす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年ごとに行い、ルール遵守の意義を説明する。</li> <li>・原付バイク通学生月1回の集会を行う。</li> </ul>		<p>【○】服装頭髪検査を年間8回実施した。基準の徹底を図り、全職員による指導の徹底を図ることができた。</p> <p>【△】各学年で、再検査「0」を目指し指導に当たったが、完全ではなかった。今後の目標としたい。</p> <p>【対策】伝統ある天高生の矜持を育てたい。</p>
	生命の尊重に関する意識の高揚	いじめの根絶	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の実態を把握し、迅速な対応を行い、いじめを根絶する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年2回程度いじめに関するアンケートを行う。</li> <li>・全職員が生徒情報を共有し連携を密にする。</li> </ul>		<p>【○】生徒の心の状態を把握するために、年2回「いじめアンケート」・「心のアンケート」を実施することができた。また、実施結果を有効に活用するとともに、各学年会で気になる生徒の状況を報告・共有し、担任と連携して個別の生徒の実情を把握して迅速な指導に当たることができた。</p> <p>【○】いじめ防止対策委員会で具体的な生徒の事例を挙げながら、外部委員（SSW）の方のアドバイスをもとに、対策を講じることができた。</p>

人権教育の推進	命を大切に する心の 育成	・職員、生徒に「命を大切に する心」を 育むことの 重要性につ いて理解さ せる。	・職員研修で、事例研修並び に班別協議会を実施する。 ・全校集会やLHRにおいて、 「命の大切に する心」につ いて考えさ せる。	【○】日頃の担任による個人面談等を数多く実施し、少しでも心配のある生徒がいる場合は、即座に対応できる体制を整えている。
		教育相談 の充実	・年間5回以上カウンセリング委員会 を実施する。	・現状を分析し、担任に指導 助言を行う。
	豊かな人間性の育成	・貸出数の1人当たり14冊以上を目指す。 ・「朝の読書」を徹底させる。 ・利用率の増加(貸出数0冊の生徒を減らす)を図る。	・良書の選定と「図書館だより」の充実及び年間10回以上の発行。 ・全職員、全生徒で、一斉に行う。 ・多彩な分野の蔵書を揃え、生徒の情操や知的好奇心に訴えかける。	【○】年間5回のカウンセリング委員会を実施できた。生徒の状況把握や協議を行い、協議内容は学年で生徒への支援に生かすことができた。 【○】カウンセリングの時間が年間12回から15回に、時間数にして48時間から60時間に12時間増えたことで、生徒・保護者・教職員ともに昨年度より充実した相談を行うことができた。 【○】不登校傾向の生徒や、人間関係の不安感から過呼吸が頻発傾向にあった生徒が落ち着きを取り戻し、学校に登校できるようになったり、過呼吸を起こさないようになるなど、十分なカウンセリング効果が得られた。 【△】カウンセリング後の担任へのフィードバックがスムーズに行えなかった。 【対策】年々相談者が増え、カウンセラーによる即日報告が難しくなっている。できるだけ速やかに記録を入力してもらい、担任にフィードバックする速度を上げるように努める。
健康安全教育の推進	人生観・ 職業観の 育成	・生き方や職業に関する講演会を開催する。 ・芸術鑑賞会の満足度アップを図る。	・各種行事とタイアップして同窓会、保護者、地域の方に講演をお願いする。 ・事後アンケートで満足度と次年度の鑑賞希望を調査する。	A 【○】「天高の100冊」を中心に、更なる新書の充実を計った。貸出数は生徒1人16.7冊(1月末現在)は県平均6.8冊を大きく上回っている。年間合計貸出冊数は12,780冊だった。 【○】年10回の図書館便り及び年3回の掲示式読書案内を発行した。今年度は生徒図書委員が新書紹介の掲示を行った。併せて日常的な掲示物更新や展示入替で、読書意欲喚起を行った。今後、朝の読書を学年等と連携して行うことで更なる充実を図る。 【○】調べ学習等での図書館利用は年間228時間だった。利用授業は、保健体育・総合的な学習の時間・3年教養講座・小論文学習等であった。
	道徳教育 の推進	・学校の教育目標に基づき教育活動の全領域において道徳教育を推進する。	・「人間としての在り方・生き方」に関する講演会を開催する。	【○】性教育講演会、人権教育講演会はとても心にしみ入る話で、「人間としての在り方生き方」に関して、生徒・職員共に考えを深めることができた。今後も幅広く情報を集め、良い講師の人選に努めたい。
	健康・安全 教育の推進 と環境整備 の推進	・治療勧告生徒の受診率を向上させる。 ・生徒の健康状態に応じた個別指導を充実させる。	・長期休業前や定期考査前を目処に治療勧告書を渡し、治療の必要性を呼びかける。 ・健康観察を徹底させ、健康状態を把握した上で個別の保健指導につなげる。	B 【△】2/1(月)時点での治療率は31.8%であった。昨年度末の治療率45.9%から低下している。 【対策】歯科治療については、健康管理の第一歩であり、放置しても治らないことなどを職員に認識してもらう必要がある。各学年の保健部職員が学年会等で繰り返し必要性を訴えていくことが必要であると考える。 【○】保健委員の活動が活発であり、健康観察の徹底ができた。健康観察の分析情報をもとに担任との連携を図ることができた。
	環境美化 の徹底	・時間一杯清掃し、校内美化に努める。 ・ごみの分別を習慣	・年間計画を立てて計画的に実施する。 ・全生徒が掃除にあたり、担	【○】各学期毎に美化コンクールを実施した。各クラスで競い合って高い平均点を出し、美化に対する行動や意識を高められた。

			<ul style="list-style-type: none"> <li>化する。</li> <li>・学校版環境ISO活動（エコスクール）に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>当職員が率先垂範して指導にあたる。</li> <li>・分別のスリム化や分別しやすい表示等の工夫により分別の習慣化を図る。</li> <li>・エコスクール推進委員会、生徒生活委員会を中心に全職員・生徒で取り組む。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>【△】職員室のゴミ捨て当番は自主的にローテーションで回ようになったが、部活動で出たゴミや、職員室での「ゴミの分別」に問題が残った。</li> <li>【対策】職員が率先垂範し指導にあたるという意識づくりを行い、身近な所から環境美化を徹底する。</li> <li>【○】毎月エコスクールチェックを行うことで、節電・節水に対する意識を高め、昨年度よりも使用量を削減できた。（以下1月末現在での比較） 電気 H26 6,385,042円→ H27 6,038,989円 水道 H26 3,054,951円→ H27 2,634,057円</li> </ul>
		整備の徹底	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に安全点検を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・掃除用具の点検を定期的に行い、迅速に改善する。</li> <li>・安全点検を受けて、危険箇所の改善を迅速に行う。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>【○】学期初めには掃除用具の補充を行い、学校清掃作業が円滑に進むように準備できた。</li> <li>【○】安全点検を計画通り実施できた。事務部と連携し、不備な点や危険箇所は迅速に改善するよう努めることができた。</li> </ul>
いじめの防止等	指導体制の組織的整備	組織の実効的活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理職を含む複数の教職員、専門的な知識を有する臨床心理士等による「いじめ対策委員会」の実効的に活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間指導計画の作成・実行</li> <li>・検証・修正の中核的役割を果たす。</li> <li>・情報を共有し、生徒への事実確認、保護者との連携、対応方針の決定等を組織的に行う。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>【○】本年度、いじめマニュアルの大幅改訂を行い、重大事態に対応する部分を付け加えた。また、校内組織での対応の在り方について修正を加え、組織的な判断や対応方針の決定ができるようにした。</li> <li>【○】いじめの未然防止のための外部委員にSSWの黒田氏を選定し、いじめが疑われる事例検討等を行った。校内での職員の認知感度向上に役立った。</li> </ul>
		いじめの防止	<ul style="list-style-type: none"> <li>・互いの良さや個性が大切にされ、一人ひとりが尊重される人間関係や学校風土を構築する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種の講話や講習会、LHRを有効に活用し、一人ひとりの心に迫る。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>【○】保護者に「子どものサイン発見チェックリスト」を配布する等、PTAとの連携を取ることができた。</li> <li>【○】親子の学びプログラムを活用し、12/23(水)PTA役員と生徒代表がワークショップ形式でスマートフォンの功罪を語り合うことができた。年明けからは、生徒会が中心となって、スマホを扱うモラル(ルール)を自主的に作成・制定する動きを広げている。</li> </ul>
		未然防止及び早期発見のための取組みの強化	いじめの早期発見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「いじめはどの学校にも起こりうる」という認識に基づき積極的に対応する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別面談やアンケート等を定期的に行い、積極的な実態把握に努める。</li> </ul>	B
		いじめへの対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・解決に向けて組織的に迅速な対応を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「対応マニュアル」に従い、情報収集と記録、確認を行い組織的に迅速に解決する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【○】いじめの重大事態は起こらなかったが、クラスや部活動において、友人関係や人間関係で悩んでいる生徒が見られた。学年や担任、家庭で連携し取り組み、現在は解決している。</li> </ul>	

#### 4 学校関係者評価

2月15日に今年度2回目の学校評議員会を開催し、評議員の方々から今年度の取組及び生徒・保護者・職員へのアンケート結果等について御意見をいただいた。特に、職員の受験指導や人間指導が、厳しくも温かい指導となっていることに対して、労いの言葉をいただいた。また、入学後の生徒の大幅な学力伸長や、積極的に国際交流を展開していること、図書館利用の活性化や生徒の読書量に対しても高く評価いただいた。SCやSSWを活用した生徒の心のケアについては、感謝の言葉が述べられると共に、これからは様々な生徒に対してケアをお願いしたいと要望が述べられた。

一方、従来から課題となっていた「地域への情報発信」については、マスコミの報道増に対し一定の評価をいただくとともに、HPで職員リレーブログを作成し「人間味溢れる天高」を伝えられないか、等のアイデアをいただくことができた。今後実現に向けて動き出したい。

また、教科指導の点においては、大学入試センター試験での全国平均点との差が話題となった。教科毎の分析と、成果・課題の共有を更に徹底し、弱点教科の克服を図りたい。また、天草地域として英語力を伸ばすために、中高の授業連携を提案いただいた。来年度からの実現に向け始動したい。併せてグローバル化を見据えたうえで「地域を学ぶ」という視点を大切にしながら学びの再構築ができないか、との提言もいただいた。他校の「天草学」等も研究し、天草案内人の会、天草起業塾学習会等と連携を図りながら、実現を模索したい。

#### 5 総合評価

本校の教育活動については、年2回の学校評価アンケート結果や評議員の先生方から「良好である」との評価をいただくことができた。今年度は、教育実践のさらなる積み上げに加え、広報活動に力を入れたが、それが奏功し、入学志願者は、昨年度比8ポイント増加。定員を20人近く超える入学志願者を確保することができた。地域への情報発信は徐々に改善されつつある。しかし「これだけの素晴らしい教育実践は、是非地域へ広く伝わるようにしてほしい」との要望も評議員より引き続き出されており、更に様々な手法を用いて情報発信に努める必要がある。

また多様化している生徒への教科指導や学習習慣指導、心のケアのあり方については、それぞれの子どもたちの到達度に応じた個別学習や学び直し、教育相談体制のさらなる充実を含め、きめ細かな対応が図れるよう、更に改善していく必要がある。

一方、年間を通して意識して取り組んでいる不祥事防止については、「不適正経理」「情報管理」「セクハラ・わいせつ行為」「体罰・暴言」「飲酒運転」「薬物乱用」「金銭トラブル・窃盗」の研修を行った。特に「情報管理」と「飲酒運転防止」については、時機を捉えて繰り返し研修を行った。職員の学校評価では「問題意識、危機管理意識は全員で共有されている」「教育活動に関する共通理解や連帯感は確立されている」に対する肯定評価が85%を越えた。今後は、学校安全管理の観点に立ち、執務室の机上整理や物品の管理、施錠の徹底、職員間のコミュニケーションの醸成、長時間勤務の防止等に更に努めたい。そして平成28年度は学校改革プロジェクトを立ち上げ、長期展望に立った学校改革（授業改革・勤務時間縮減）を実行していきたい。

進路保障については、生徒たちの学力向上と進路希望達成に向けて「雛鵬プラン」を基盤に職員全員で取り組んできた。日頃の授業の充実が何よりも大切であることを職員一人一人が認識することから始め、授業力アップのために、年間のシラバス検討や、授業前の共同教材研究、教科での大学入試問題分析・模試問題解答傾向分析等に取り組んだ。また進路検討会を職員研修として位置づけ、各生徒の課題や可能性等について多角的な検討を加え、生徒や保護者にどのようなアドバイスをするかを全職員で研鑽し、スキルアップに繋げた。進路状況については、難関大学への進学も含め全体としては例年どおりで、生徒の希望を叶える実績を残すことができた。

以上のような取組から、個性豊かな人材の育成と規律ある活気溢れる学校づくりは、着実に推進されていると考えている。

## 6 次年度への課題・改善方策

### 1 課題

#### (1) 地域に開かれた地域拠点校としての学校づくり

- ア 本校教育内容の分かりやすい広報活動のさらなる取組
- イ 地域の人材の活用と連携
- ウ 地域に出かける実践型学習活動の推進

#### (2) 創造性や感性を育む体験活動の推進

- ア ボランティア活動のさらなる推進
- イ 自主的地域奉仕活動の創出
- ウ 同窓生との連携拡充

#### (3) 自主自立精神の獲得

- ア 地域進学重点校としてのさらなる進路実績の向上
- イ 文武両道のバランスのとれた高校生活の創造
- ウ 自己表出力の獲得

### 2 改善策

#### (1) 地域に開かれた地域拠点校としての学校づくり

- ア 教科指導力の向上と協働型授業の導入
- イ ホームページの充実（ありのままの学校・生徒の姿を発信）
- ウ 一人一人の達成度に応じたフォローアップ講座開講や個別添削指導の充実
- エ 地域の同窓生や青年会議所等の人材活用

#### (2) 創造性や感性を育む体験活動の推進

- ア 朝読書の継続的進化と表現活動へのステップアップ
- イ 生徒会・部活動単位での清掃活動や学習支援活動等地域に還元できる活動の創出
- ウ 国際交流活動、留学体験活動のさらなる推進

#### (3) 自主自立精神の獲得

- ア 宅習時間調査に基づく自主的基本的生活習慣の確立
- イ 学業と部活動両立のための部活動リーダー研修会の推進
- ウ 保護者学習会の推進と育友会との協働による保護者サポート体制の構築
- エ 協働的授業導入及び各種発表会の創出による自己表出力の醸成

